

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

自分から進んで学び、活動する児童の育成

＜本年度の学力向上策＞

○協働的問題解決力を高める授業づくり

→アクティブ・ラーニングで「できた」「わかった」を増やして、
学力向上を目指す

- ・学習における問題解決の場として、学習課題や学習過程を工夫する。協働の必要性を教えたり、児童が達成感や自己有用感を感じられたりできるようにする。
- ・生活における問題解決の場として、学級活動で「クラス会議」を行う。他者への関心を高めたり、問題解決の方法を指導したりする。
- ・学校評価アンケート「授業で学習したことがきちんとわかっている」の平均値を向上させる。

○安心感のある学級集団づくり

→失敗をおそれない、挑戦しやすい学習環境を整えることで、
学力向上を目指す

- ・教師と児童の信頼関係を深める。児童の存在を認める、成長を喜ぶ、活動を見守るを教職員のスタンスとして、校内資料「勇気づけの極意」をもとに児童への勇気づけの声かけを積極的に行う。
- ・児童同士の信頼関係を深める。温かな感情交流を増やすために、教室掲示物「認め合い名人」「あいづち名人」の活用を積極的に行う。
- ・学校評価アンケート「自分から進んでいろいろなことに取り組もうとしている」の平均値を向上させる。

＜本年度の振り返り＞

○協働的問題解決力を高める授業づくり

- ・学校評価アンケート「授業で学習したことがきちんとわかっている」の平均値は、平成30年度3.52、令和元年度3.48でほぼ横ばいであった。また、肯定的回答の児童の割合が9割を超えたことから、「できる」「わかる」授業づくりを推進できた。

○安心感のある学級集団づくり

- ・学校評価アンケート「自分から進んでいろいろなことに取り組もうとしている」の平均値は、平成30年度3.29、令和元年度3.32でほぼ横ばいであった。また、肯定的回答の児童の割合は9割近いことから、児童の意欲や安心感を高めることができた。